

甲斐市総合計画審議会 第6回【要録】

日 時：平成27年12月24日(金)

午後3時30分～5時10分

場 所：新館4階大ホール

出席委員：【19名／24名】

※代理出席2名

欠席委員：大山委員、大沢委員、長倉委員、
市川委員、坂田委員

1 開 会

2 会長あいさつ

委員の皆さまにおかれましては、年末のお忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。今年も残すところ1週間となりますが、先日、新聞でアメリカの金利が上がるという記事を見ました。専門家は、半年後には円安になるという見方をしています。その結果、これまでも外国人観光客数は増えてきておりますが、さらに来やすくなるので、おのずと富士山へ行く外国人は増えるでしょう。訪れた人が甲斐市にも来てもらえるよう、なお一層工夫が必要になると思います。また、日本の輸出も増えていきますので、大企業だけでなく中小企業の仕事も増えるのではないかと思います。経済面としては、良いニュースだったと思います。

さて、本日は第5章についてですが、皆さまも関心度が高い分野だと思いますので、引き続き活発な意見をお願いいたします。

(事務局)

ここで、欠席委員の報告をさせていただきます。大山委員、大沢委員、田中克直委員、河原委員、坂田委員から欠席の連絡をいただいています。なお、田中委員については代理としまして、国土交通省関東地方整備局甲府河川国道事務所計画課専門官の木村様に、河原委員の代理としまして日本政策金融公庫の諏訪本様に出席をいただいています。

それでは、会議につきましては、甲斐市総合計画審議会条例第6条第1項に基づき、会長が議長となっております。ここからは、波木井会長の進行によりよろしく申し上げます。

(会長)

それでは、次第に基づき、進行します。

さきほど、事務局から5名の欠席の報告がございました。よって、甲斐市総合計画審議会条例第6条第2項に基づき、本日の審議会の委員出席は、過半数以上ですので、本審議会は成立し、会議を開くこととします。

3 案 件

(1) 第2次甲斐市総合計画基本計画（素案）について

(会長)

それでは、3 案件に入ります。

(1) 第2次甲斐市総合計画基本構想について事務局から報告を求めます。

(事務局)

第2次甲斐市総合計画基本構想については、本審議会での答申をいただくなか、12月の定例市議会に上程を行い、12月18日に議決されましたので報告いたします。

改めて、これまでの審議にご協力をいただき、御礼を申し上げます。事務局からは以上です。

(会長)

報告が終わりました。この案件に関しては、報告事項ですので、次に進みます。

(2) 第2次甲斐市総合計画基本計画（素案）について

(会長)

第4回の審議会において、第1章及び第2章の審議、前回の審議会においては、第3章及び第4章の審議を行ったところであります。

本日は、これまで審議を行った、第1章から第4章までの見直しを行った内容の説明をいただき、確認をお願いするとともに、前回に引き続き、第5章及び推進方策について審議を行います。

はじめに、第2次甲斐市総合計画基本計画（素案）の第1章から第4章の見直しを行った内容について、事務局の説明を求めます。

■事務局より第2次甲斐市総合計画基本計画（素案）の第1章～4章について、見直しを行った箇所について説明。

(木村委員)

52ページの「(4) 治山・治水」の4行目の「河川・水路の改修や維持管理～」の箇所を、「洪水を安全に流下させることができるよう」としてはどうでしょうか。

(事務局)

いただいたご意見については、担当課とも相談した中でも出ていましたが、治山・治水の項目となっているため、洪水に特化させず、普段の維持管理についても触れる必要もあるだろうとのことでした。

いただいたご意見を踏まえ、「河川・水路の改修や維持管理の強化を図るとともに、洪水を安全に流下させることができるよう国や県などと連携して対策を進めます。」という形ではどうでしょうか。担当課と検討いたします。

(石川委員)

34ページ以降の「健康づくり・医療の充実」について、本計画策定期間である10年間でベッド数が足りなくなる中で、在宅医療を進める動きになると思います。市として、在宅医療へ移行する際に、どのような考えを持っているのでしょうか。本文中では、医師会との連携については触れていますが、在宅医療に移行する際にどのような考えを持っているのか、教えてください。

(事務局)

担当課に確認し、次回報告させていただきます。

(立澤委員)

45ページの「上水道の整備」について、「龍王源水について台湾において販路の開拓事業を展開した」とありますが、今後の施策の方向にも記述しなくてよいのでしょうか。

(事務局)

69ページの「地域ブランド戦略の確立」の中で記載する形で担当課と相談していたが記載されていないため、再度担当課に確認をします。

(会長)

次に、第5章について事務局から説明をお願いいたします。

■事務局より第5章について説明。

(中井委員)

64ページ、65ページの「農地の流動化」というタイトルについて、所有権を売って自由に売買できるようになるというニュアンスを受けるため、「優良農地の確保」「農地の有効利用」といったタイトルの方が内容を正確に表しているのではないのでしょうか。

また、68ページの「企業誘致の推進」について、「新たな地域の検討をしていきます」

とありますが、企業誘致をするうえで住宅地と大型店、企業等が混在しているところに問題があるわけで、都市計画上の制度にのっとった政策提言をした方が良いのではないでしょうか。例えば、「用途地域を新たに設定する」「新たな線引きを見直す」といった表記はどうでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。都市計画マスタープランの見直しの時期に来ていますので、あわせて担当課と検討し、次回審議会で報告させていただきます。

(田中委員)

69ページの「(3) 創業・起業支援の充実」の、日本政策金融公庫の後ろに、「地域の金融機関」という表記も追加してほしいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。総合戦略にも地域の金融機関と協力するという表記が出てきているため、担当課と検討し、次回審議会で報告させていただきます。

(高柳委員)

田中委員の意見に関連して、69ページの「(5) 産学間・産学官連携の推進」について、産学官に「金」を追加してはどうでしょうか。あわせて、文章の内容についても「地域の金融機関」について触れる内容にしてはどうでしょうか。

それから、質問で72ページの「(1) 首都圏に向けた魅力情報の発信」の中で「事務所を設置するなど」とありますが、事務所とは具体的にどのようなイメージでしょうか。

(事務局)

産学官金という表記について、文章内容も含めて検討させていただきます。

また、質問の事務所については、地方創生の中で交付金をいただき、都内に情報発展拠点として民間に委託しています。そこを活動拠点として展開しています。表現については、また検討します。

(三井委員)

64ページの「農林業の基盤整備の推進」の中で、「農林道の整備」について表記されていますが、バイオマスを推進していくのであれば、林道の整備については独立させて表記した方が良いのではないのでしょうか。

(事務局)

林業の衰退という視点で林業の活性化という意味で重要な視点だと思います。また、市としてもバイオマス産業都市構想をかかげています。66ページの「(3) 農林業基盤整備の推進」の中で、現状、保全だけの表記となっていますので、担当課と検討し次回審議会で報告させていただきます。

(中井委員)

75ページの「地域コミュニティ活動の促進」の8行目「加入したくなる魅力ある自治会(区)づくり～」とありますが、魅力がないから自治会に入りたくないのではなく、高齢者が多い中で、ゴミステーションの管理や様々な役員などを務められないなど、自治会の持つ役を担うのが難しくなっているのが、現場での課題ではないだろうか。その中で加入率増加を目指すのであれば、「自治会の役割への理解度を上げる」「地域の問題を解決するために自治会があるということの理解」といった表記の方が正しいのではないのでしょうか。

(事務局)

だいぶ中身が変わるご指摘のため、担当課と検討をさせていただきます。

(諏訪本委員)

外から見た人間として、甲斐市の良さをもっとPRすべきと感じています。猫の駅長や大きな人形、お金を入れたら願いが叶うなど、面白いPRネタを考えて人を呼び込めれば良いと思います。

(事務局)

68ページの今後の施策の方向の中で示させていただいているところですが、いただいた意見について担当課に確認をさせていただきます。

(会長)

67ページの「観光産業の振興」の4行目の「市民全体で観光客をもてなす～」とありますが、「市民全体で国内・海外からの観光客をもてなす」とした方が、外国の観光客に対しても意識されていることが伝わるのではないのでしょうか。

また、「商工業・サービス業の振興」について、書かれている内容が商業に特化されているような気がします。工業・サービス業にも目を向けているということが分かった方がよいと思いますので、例えば2行目の「中小小売商業」とあるところを、「商工業・サービス業」としてはどうでしょうか。あわせて、6行目の「商品の販売促進や技術等の」のところに「商品の販売促進や製品開発につながる技術等～」としてはどうでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。担当課と相談させていただきます。

(立澤委員)

66ページの「地域おこし協力隊」と71ページの「シティプロモーションの手法」については、注釈が必要ではないでしょうか。

72ページの「(1) 首都圏に向けた魅力情報の発信」の文章が長く分かりにくいので、再検討された方がよいのではないのでしょうか。

73ページの「(4) 全市的イベントの開催」の中の「愛着心の醸成」の醸成という言葉はあまり使わないので、別の言い方を検討された方がよいのではないのでしょうか。

65ページの「鳥獣被害対策の推進」について、具体的にどのくらいの被害が起こっているのか、被害額がどのくらいなのか集計表を載せていただければと思います。

71ページの「国際交流と多文化共生社会の実現」の中で、教育委員会への担当変更について検討されていないのでしょうか。もしあるのであれば、今後の施策の方向の中で表記されてはどうでしょうか。

(事務局)

71ページの部分については、教育以外の幅広い形を意識しての表記となっています。その他のご指摘も含めて担当課と検討させていただきます。

(中井委員)

68ページの「観光産業の振興」について、甲府市の事例ですが、温泉地で外国人が海水パンツを履き、かつ湯船の中で石鹸を使い体を洗い始めたということがあったようです。さまざまなことで文化・習慣の違いが文化的摩擦の原因になっているということもあると思います。行政がPRする中でも文化的摩擦の問題を一言書いておくようなことも触れてはどうでしょうか。

(事務局)

いただいた意見について、72ページの「(3) 国際交流と多文化共生社会の実現」の中で記述させていただいていますが、担当課に伝え検討したいと思います。

(中込委員)

72ページの「首都圏に向けた魅力情報の発信」について、単にWEBサイトを作るだけでなく、見に行ってみようと思うための仕組みづくりを検討されてはどうでしょうか。発信力のある人を市の職員として雇って行うなど、戦略的に情報発信に取り組んではどう

でしょうか。意見です。

(事務局)

ありがとうございます。検討させていただきます。

(会長)

80ページの「(8) 地域経営体制の充実」の2行目、「研究結果を実現させるための実効力を」の「実効力」の漢字は、「実行力」ではないでしょうか。

(事務局)

再度確認します。

(木村委員)

68ページの「(1) 観光産業の振興」について、総合的な観光案内所を設置していくという考えがあるのでしょうか。

また、観光について隣の市と連携した事業については考えているのでしょうか。我々の事業で道の駅の事業がありますが、道の駅を介して連携していければと考えていますが、甲斐市ではどうなのでしょう。

あわせて、定住に関する課題もあると思いますので、観光とあわせてご検討されてはどうでしょうか。

(事務局)

ブラッシュアップできるご指摘だと思いますので、担当課と検討したいと思います。

(会長)

次に、「推進方策：着実・確実な総合計画の実行に向けて」について議論したいと思います。事務局からの説明を求めます。

■事務局より「推進方策：着実・確実な総合計画の実行に向けて」について説明。

(高柳委員)

総合戦略では基本目標が4つかかげられていますが、総合計画では5つ基本目標があります。順番も異なりますが、意図があつてのことなのでしょう。

(事務局)

総合計画の見直しの時期と、国からの総合戦略の策定の時期が同じとなっています。国

の指針は、今後5年間で戦略的に取り組むことになっていますが、総合計画は10年間の計画となります。甲斐市では、総合計画5つの基本目標の中で、特に5年間で戦略的に取り組むこととして総合戦略の4つをかかげています。また、4つの目標は国がかかげている目標にあわせています。

(会長)

よろしければ質疑を終了いたします。本日の案件は以上となります。委員のみなさま、貴重なご意見ありがとうございました。

それでは、会議の進行につきましては、事務局にお返しいたします。

みなさま、ご協力ありがとうございました。

4 そ の 他

(事務局)

事務局から今後の予定について報告させていただきます。次回の審議会につきましては、2月上旬を予定しています。日時が決まり次第改めてご連絡させていただきます。

5 閉 会

(事務局)

これを持ちまして第6回甲斐市総合計画審議会を閉会と致します。